

# 硝子率が低く精麦品質が優れる早生・多収の 裸麦新品種「ハルヒメボシ」

## 目的と特徴

- ・硝子率が低く、精麦の白度が高い、高品質の六条裸麦「ハルヒメボシ」を育成しました。
- ・早生で、倒伏に強い上、成熟期に稈が折れにくく、収量性が高いなど、栽培性も優れています。
- ・品質ランク区分における品質評価基準の硝子率、白度の基準値を達成しやすく、生産者の収益性の確保が期待できます。

## 「ハルヒメボシ」は従来品種と比較して

- ・出穂期と成熟期は「イチバンボシ」と同程度であり、「マンネンボシ」より2~3日早い早生種。
- ・「ヒノデハダカ」より耐倒伏性が強く、成熟期以降の稈の中折れが発生しにくい。
- ・穂数は少ないが、穂長が長く、多収である。
- ・原麦白度が高く、硝子粒の発生率が少ない。
- ・精麦白度が非常に高く、砕粒率が低く、精麦品質が優れる。
- ・麦味噌用の麴特性は「ヒノデハダカ」に近く、品質に大きな違いはなく、同程度の味噌加工適性を有すると判断される。



ハルヒメボシ    イチバンボシ    ヒノデハダカ

## 「ハルヒメボシ」の主な特性

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	穂長 (cm)	倒伏 程度	整粒 収量 (kg/a)	同左 標準比 (%)	硝子 率 (%)	精麦品質		
								60% 搗精時間 (分:秒)	精麦 白度 (%)	砕粒率 (%)
ハルヒメボシ	4.06	5.19	5.9	0.4	62.4	112	15.5	11:00	48.6	3.1
イチバンボシ	4.06	5.19	5.2	0.6	55.9	(100)	33.6	10:27	45.5	13.1
マンネンボシ	4.08	5.21	5.1	0.2	56.6	101	35.2	10:26	42.9	4.1
ヒノデハダカ	4.05	5.18	5.1	1.0	54.8	98	30.2	12:24	43.4	6.3

2004~2010年度のドリル播標肥栽培成績の平均値

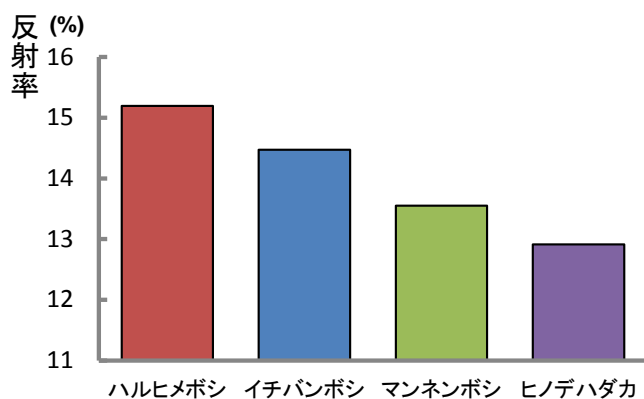
倒伏程度は、0(無)~5(甚)の6階級評価

## 成果

- ・「ハルヒメボシ」は早生で穂長が長く、倒伏や中折れが少なく、整粒収量が高い品種です。
- ・硝子率が低く、原麦白度・精麦白度が高く、精麦品質が優れ、味噌加工適性を有します。
- ・愛媛県で奨励品種に採用予定です。

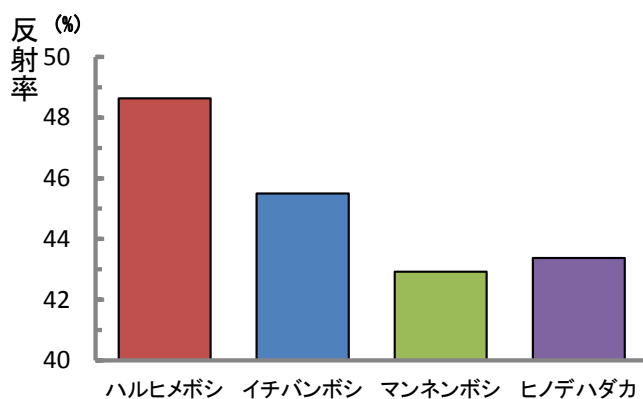
# “品質ランク区分”の基準値をクリアしやすい品種です

## 「ハルヒメボシ」は白度が高い



原麦白度

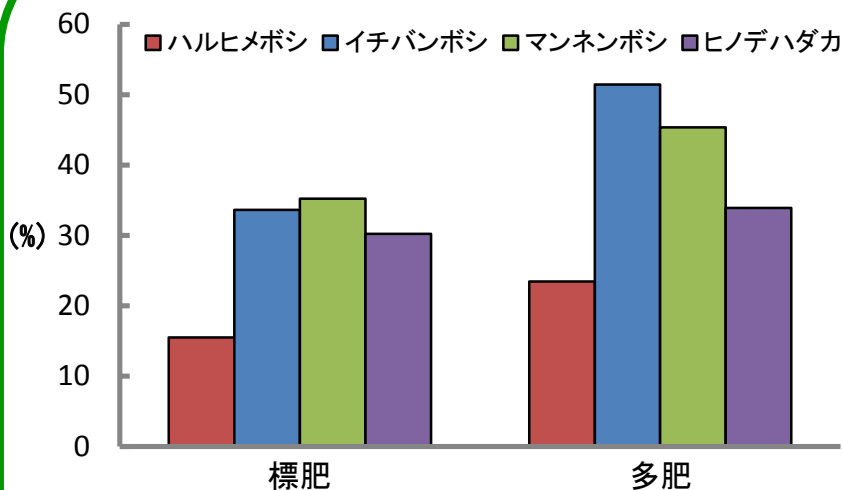
2004~2010年度ドリル播き標肥栽培での平均



精麦白度

2004~2010年度ドリル播き標肥栽培での平均

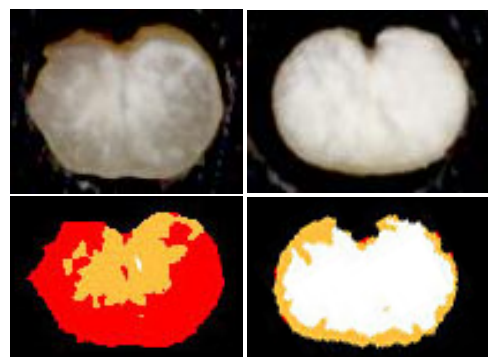
## 「ハルヒメボシ」は硝子率粒の発生が少ない



「ハルヒメボシ」の硝子率

2004~2010年度のドリル播き栽培での平均値

硝子質粒 硝子質部分が70%以上  
粉状質粒 硝子質部分が30%以下



上: 穀粒の断面画像  
下: Kett社硝子率判定器(RN-840)による解析画像  
(赤色: 硝子質、橙色中間質、白色: 粉状質)

※硝子率 = (硝子質粒数 + 0.5 × 中間質粒数) / 調査粒数 × 100

### 対象作物、普及対象

- ・大麦、温暖地の平坦地

### 対象農家

- ・硝子率の増加が問題となっている裸麦産地

### 関連HP (成果情報)

[http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/warc/2011/112e0\\_10\\_16.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/warc/2011/112e0_10_16.html)

### その他

- ・オオムギ縞萎縮病にはⅡ型以外のウイルス系統に対しては抵抗性ではないので、多発する汚染土壌での作付けは避けてください。
- ・うどんこ病と赤かび病には強くないので、適期防除を行ってください。